

全さんま地域プロジェクト漁船建造計画書

1. 目的

さんま棒受網漁業ならびに大目流し網漁業を兼業する業種において、将来における経済性・安全性・居住性を備えた経営改革型漁船の適正規模と具体的検討を推進し、その実現に資することを目的とする。(別添 改革計画の基本コンセプト参照)

2. 基本方針

- ①航走時の省エネに資するため、低抵抗船型を採用し、大口径低回転プロペラ、電子コントロール減速機を導入する。
- ②居住区の改善に資するため、居室は、高さ、寝台寸法等、可能な限り総トン数 200 トン以上の漁船に係る漁船の設備基準 (ILO) に準拠するものとする。
- ③さんま棒受網漁業に用する漁灯システムとして、LED 漁灯 (白熱灯、メタハラ灯を全て LED 灯に換装。ただし、探照灯は従前のキセノン灯を利用する) を導入することにより、電力の削減も含め、最も効率のよい発電機関の能力・台数を選定し導入する。
- ④鮮魚の付加価値向上を目的とし、冷海水装置を導入するとともに、専用の冷海水艙 (10m³ 以上) を設ける。また、海水シャーベット氷製造装置 (500kg/日) を設ける。
- ⑤中・小型サンマならびに大目流し網の漁獲物の一部を凍結することを目的に、冷凍機 (60kW×2 台) ならびに、凍結室 (2 部屋で 30m³ 以上) を設ける。
- ⑥漁撈における省力化を目的とし、漁撈舷に省力化装置 (サイドローラー、ボールローラー等) を設置する。
- ⑦定員は 18 名とする。

3. 船体要目

- | | |
|-----------|--------------------------------|
| ・ 漁船種類 | さんま棒受網、大目流し網兼業船 |
| ・ 計画総トン数 | 上記内容を満たし、200トン未満 (133トン~199トン) |
| ・ 計画航海速力 | 12.5ノット |
| ・ 最大航海日数 | 5日 |
| ・ 発電機関 | 必要な容量 |
| ・ 最大搭載人員 | 18名 |
| ・ 魚倉容積 | 約200m ³ 以上、既存船未満 |
| ・ その他特記事項 | 建造造船所及び機器メーカーは、現在検討中。 |

【参考資料】

現存船の状況 (当該地域)

- | | |
|----------|------------------------------|
| ・ 漁業種類 | さんま棒受網漁船 |
| ・ 総トン数 | 199トン |
| ・ 発電機関 | 320kW、240kW、600kW各1台 計1160kW |
| ・ 航海速力 | 12.5ノット |
| ・ 最大搭載人員 | 19名 |
| ・ 魚倉容積 | 約250m ³ |